

事業報告書 (平成31年度)

事業名 岡山市立岡山後楽館高校生によるトンボの森づくり体験と環境学習

団体名 岡山市立岡山後楽館高等学校 担当者名 柴田美智子

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

1. 「トンボの森づくり体験と環境学習」

令和元年7月16日(火) 15:45~17:30 岡山後楽館高等学校 1・2年次生 20名参加

「事前指導」 講師 小桐 登 様

- ・今回の事業内容の説明(一昨年の実施報告書「トンボの森づくり体験」を使用)
- ・森の機能や役割について(冊子「まにわのわ」と講師作成のプレゼンテーション資料を使用)

- ・森の整備の必要性について

・化石燃料に頼らない、自然資本を生かした経済の循環や自然の範囲の中で生活する日本人の知恵の伝承や新しいライフスタイルについて

- ・マイクロプラスチック問題について

令和元年7月27日(土) 8:00~18:00

トンボの森、津黒高原荘など 1・2年次生 18名参加

「トンボの森づくり体験と環境学習」

講師 小桐 登 様 川原 洋平 様

① オリエンテーション

・真庭トンボの森づくり活動の説明(目的、関係団体、活動の経緯、森の変化など)

- ・森の作業の注意と作業方法の説明、準備運動、身支度

② 移動、講義、作業

- ・移動しながら森の整備状況の説明

- ・森の機能を考える

- ・森の役割と日本人の暮らしの関わり方の変遷の説明

(かつては、山菜やキノコなどを食物として利用したり、木を伐採して薪として利用したりしていたが、現在は森の中にあるものを使わなくなった。このような生活スタイルの変化が森に与えた影響と今後について)

③ 森の作業

- ・ヒノキの間伐および間伐木の皮むき体験

- ・笹刈り、間伐木の運搬作業



森の役割に関する講義



間伐木の皮むき体験



ヒノキの間伐

④ 森を楽しむプログラム

- ・ハンモック体験
- ⑤ 薪ボイラーの見学
- ⑥ 感想、振り返り



笹刈り

令和元年 9月18日(水) 15:45~16:30 岡山後楽館高等学校

1・2年次生 17名参加

「事後指導」 講師 小桐 登 様

- ・体験を通して、気づいたことや学んだことの振り返り
 - ・課題や問題だと感じたこと
 - ・体験によって感じた事をもとに、自分たちに出来ることは何か
- 以上3点についてグループで話し合い、情報を共有した。



薪ボイラー

2. 「西川水族館」

令和元年 5月19日(日) 11:00~16:00 西川緑道公園

2年次生 4名参加

令和元年 6月23日(日) 11:00~16:00 西川緑道公園

2年次生 5名参加

令和元年 8月20日(火) 10:00~15:00 イオンモール岡山

2年次生 3名参加

令和元年 9月29日(日) 11:00~16:00 西川緑道公園

1・2年次生 7名参加

令和2年 1月26日(日) 11:00~16:00 西川緑道公園

1・2年次生 9名参加



ハンモック体験



西川水族館

- ・山川海のつながりを学んだ生徒が「西川水族館」を実施し、手作りの図鑑の配布も行った。
- ・たくさんの方に関心をもって見ていただき、川の環境を守ることの大切さを伝えた。
- ・SDGsを意識しながら、展示の工夫を行った。



3. マイクロプラスチック問題と環境学習

令和元年 11月30日(土) 8:30~17:30

NPO主催の海底探検隊 in 小豆島 2年次生4名参加

瀬戸内海のごみを回収・分別・調査を行い、校内の発表会で結果を報告した。



回収された海ごみ

4. 岡山県産木材ふれあい事業

高校生が岡山県産木材(ヒノキ)の間伐材を使って「木工作品」を製作することにより、木材に親しむことができる。製作したベンチや木工製品を近隣の小学校などに贈呈することで、子供たちや地域の方々も県産材と触れ合うことができる。この取組をすることで、県産ヒノキ材利用促進にもつながる。



贈呈後の様子

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

・「トンボの森づくり体験と環境学習」を岡山後楽館高等学校の「まちなかのふるさと教育」の一貫の活動と位置付けることで、年1回だけ実施する活動に終わらせず、西川や瀬戸内海での活動を通して、山川里海のつながりを学び持続可能な地域づくりに貢献できる生徒を育てる取組にした。

・山川里海のつながりをしっかり理解した生徒が、西川の清掃活動以外に西川の環境保全活動の1つとして「西川水族館」を実施し、SDGsの視点を取り入れて川や海の環境を守ることの大切さをこれからも多くの人に伝えていく。

3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

・森づくりを学んだ一部の生徒が、川や海についても学びを深め、岡山市主催の西川緑道公園周辺で行われる歩行者天国やイオンモール岡山で開催された未来わくわくフェスタで「西川水族館」を実施し、市民の皆さんに西川の自然の豊かさやゴミの問題、森の役割や川や海とのつながりについてSDGsの視点を取り入れて情報発信を行い、環境を守る大切さを伝えることができた。

・実際に森に入り、街の中との空気感の違いを肌で感じ、笹刈りやヒノキの間伐、間伐木の皮むきを体験して森を整備することの大変さや必要性を感じた生徒が多い。

・ヒノキの間伐などを体験することで、以前から行っていた「岡山県産材ふれあい事業」の間伐材の有効利用について改めて意義を感じることができた生徒がいた。

・さまざまな活動に参加することで、自己肯定感が高まった生徒や、「ふるさと」としての岡山や西川の魅力を発見し、地域活性化や持続可能なまちづくりに関心を強めた生徒が増加した。

・NPOなど外部団体と連携して、海ごみの調査など新たな取組を実施することができた。

・川と海をつなげてごみ問題について考え、解決策を考え行動に移す生徒が増加した。

・生徒の感想

「森の手入れをすることが、豊かな生態系の保持につながると知って、手入れの重要性に気が付いた。森をうまく活用すれば地域活性化につながることを知ることができた。現在森の手入れをする人が減っていることが問題だと思った。」

「昔の人たちの生活の良いところを取り入れて生活したら、地球温暖化が進むのが少しでも遅くなるのではと感じた。」

「自然の中で過ごす楽しさを感じることができた。リサイクルやエコバックの使用など環境に良いことをたくさん実行し、自ら進んで自然に関心を持ち自然に触れ合う機会を増やしていきたい。」

「森の存在が地球にも、川を通してその下流にある地域にも影響を与えることがわかった。実際に木を伐採して皮をはいで、木材として利用できるようにするまでの作業がとても大変で、林業を職とする若者をもっと増やすべきだと強く感じた。」

4. 今後の課題と展望

・外部団体と連携して山川里海のつながりを知る魅力的な活動内容を新たにつくることで、活動に参加する生徒の増加につなげていきたい。

・同じような取組を行っている学校と交流し、さらに見識を拡大していくとともに活動内容の見直しを行う。

・参加生徒から環境問題について考えるよい活動であるため継続してほしいという意見が多く、今後も「森づくり体験と環境学習」の活動を継続できるよう、生徒負担を軽減するためにも助成金などを申請する。